**レポートの書き方**

**「ソーシャルワークとは何か」**

福祉明美

☆文字は　普通　明朝体です。ゴシックなどは×

**１．ソーシャルワークとは**

■ソーシャルワーク（以下、SW）とは～のことである。　**←主語と対となる述語が分かるようにする**

～ということになる。☆最初に「本レポートで～を述べる」などと全体像を示しても構わない

　　　　　　　　　　　　　　　　　　※トピックセンテンス

**２．施設によるソーシャルワークの視点**

　SWは施設によって～である。

　これは～である。

　とはいえ～である。

**３．独立型によるソーシャルワークの視点**

　一方で、SWは独立型によっての違いも出る（表１参照）。これは成年後見人としての依頼。

**表１．ソーシャルワークの依頼方式**

|  |
| --- |
| **部署内からの依頼**　　　　　　　校長からのみ～  **家族・子どもからの依頼**  **関係機関からの依頼** |

**４．考察**

　以上よりSWは～と言えるだろう。このことについて、実際のケースにおいては～という点もあり、単なる理論の理解にとどまらず～が必要でもあろう。なお～とも言えるかもしれない。

☆客観性の高さの表現の違い　推測する＜推測される、　考える＜考えられる　根拠のある場合ほど後者の表現となる

各項目を起承転結（１．起、２．承、３．転、４．結）により、記載するとまとまりをもちやすい。各項目の内容においては段落を持たせるとさらに見やすい。

（段落は200～400文字程度で一段落とし、文脈として段落を分けたり、文章の長さから分けたりする方法がある。基本的には、①段落　～である。ここには～の視点がある。　②段落　しかし～、～である。ここには～の視点がある。　③段落　さらに～という指摘もある。ここには上記と異なり～の視点がある。など）。

⇒換言すれば、一つの段落に以下のように多くの情報を盛り込むと何が言いたいのかがわかりにくい。反対を指す接続詞は段落に一つまでが普通である。

**～である。しかし～である。一方で～である。但し～でもある。×**

**引用文献**

米川和雄（2015）スクールソーシャルワーク実践技術　北大路書房, p12-15

文部科学省（2015）平成26年度スクールソーシャルワーク実践活動事例集　URL=http://www.mext.go.jp/a\_menu/shotou/seitoshidou/1340480.htm　（2016年10月1日取得）

|  |
| --- |
| **☆レポートの重要点**  　レポートは、単にテキストにある情報の羅列を求めているのではなく、「学習事項をコンパクトにでも捉えているか、そして、それを自分なりに解釈しているか、自分なりの考えへ応用させているか」を見るためにあります。  そのため自分の考えを主張すべき段落である起承転結の結の部分（つまり、考察）が大いに重要と言えます。なぜなら、それは誰にも書けない自分だけの考えだからです。  このとき、人権意識やソーシャルワーカーとしての価値を持った考えでない場合、添削時に指摘されることがありますが、文章を通してソーシャルワーカーとしての資質を高めるという意味では、指摘されることのほうが様々な思考を検討できる良さがあると捉えたほうが表現の面白みが広がります。  なおレポート能力は、いかに読み手にわかりやすく伝えられるかを示すソーシャルワーカーの技能を示しているとも言えます。主語がない、または主語が一つで、異なる主語と対になる複数の述語がある等、よくわからない文章を書いている人は実践もそのような実践となり得てると推測できます。 |